

公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟のご紹介

1. 始まりについて

1947年、UNESCO憲章に共鳴した市民により、日本のUNESCO加盟を目指す草の根活動が仙台で起こり、世界で初めて「ユネスコ協力会」が設立されました。これがユネスコ協会の始まりです。

1948年、全国の協会との連絡調整や、活動の連携をサポートする団体として当連盟が発足しました。

日本が国際連合に加盟する5年前となる1951年には、日本はUNESCO加盟を果たし、国際社会への復帰の第一歩を踏み出しました。それを後押ししたのは草の根のユネスコ活動の力でした。

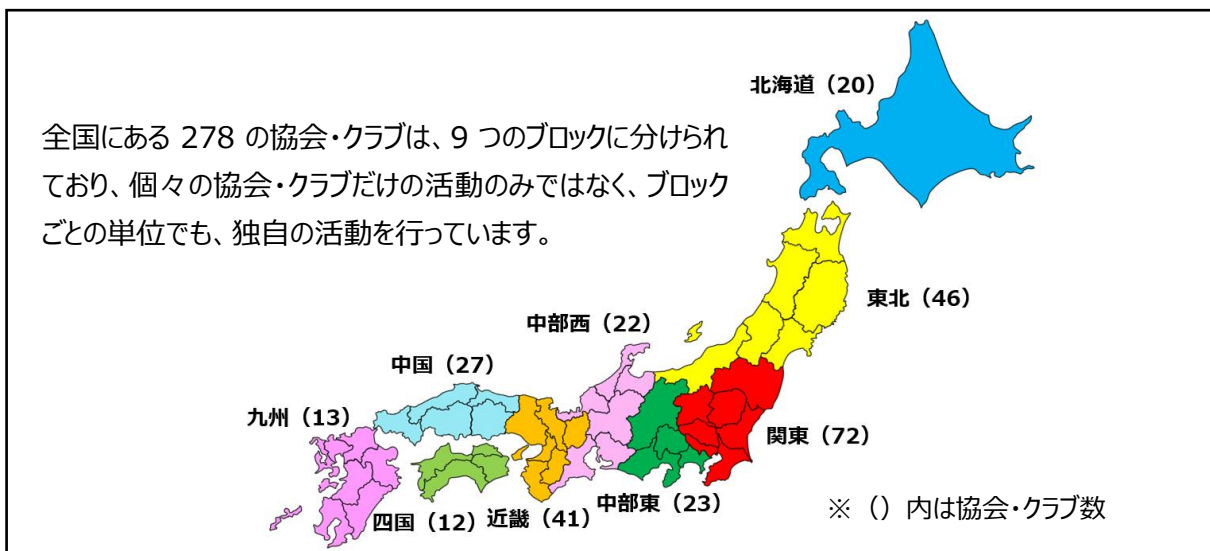
2. 組織について

日本ユネスコ協会連盟は、UNESCO憲章の理念に共鳴し、国際平和と人類共通の福祉の実現を目指し、国内外で草の根活動を行っています。

UNESCO（国連機関）や日本ユネスコ国内委員会（文部科学省内）と連携・協力して活動していますが、これらの下部組織ではなく、財政を含めて独立した民間の組織（NGO）です。活動資金は、94%が会費及び民間からの寄付金で運営しており、公的資金を受けることなく活動しています。

全国に278のユネスコ協会・クラブがあり、約16,000名の会員が在籍しています。

日本ユネスコ協会連盟は、これらユネスコ協会・クラブの連合体組織となります。



3. 日本ユネスコ協会連盟のビジョン・ミッション

民間ユネスコ運動70周年となる2017年に、これから10年の運動方針となる「ビジョン・ミッション」を定時総会にて採択しました。当方針のもと、様々な取り組みを展開しています。

ビジョン（指針と展望） Peace for Tomorrow 広げよう平和の心

ミッション（使命と責務）
(Mission 1) 平和な世界の構築
(Mission 2) 持続可能な社会の推進

貧困の連鎖を断ち切り、平和な世界を実現していくためには「教育」が重要であるとの認識のもと、当連盟では教育の普及に重点を置き、各地で取り組みを行っています。



4. 主な活動について

日本ユネスコ協会連盟が行っている様々な事業のうち、教育支援と文化・コミュニケーションに関連する事業をご紹介します。

(1) 教育支援関連

世界寺子屋運動

貧困・紛争・女性などの理由で、教育を受けられない人々のために、途上国に学びの場と機会を提供し、生きる力を育みます（カンボジア、ネパール、アフガニスタン、ミャンマーで実施）。

2019年に活動30周年を迎えました。



減災教育と自然災害発生後の教育支援

自然災害で被害を受けた子どもたちの学びや夢を支える教育(奨学金)支援とともに、全国の教職員に対しても、被害を抑える減災教育を行っています。



(2) 文化・コミュニケーション関連

世界遺産活動・未来遺産運動

人類共通のたからものである世界遺産と日本の大切な自然や文化を、尊ぶ心を育み、保護・保全を通じて、未来へ継承していきます。



SDGs 達成に向けた次世代育成

誰も取り残さない、よりよい地球をつくるために。課外学習や異文化交流などの学びの場を提供し、グローバルな視野をもって、地域で活動する次世代を育成しています。



各地域のユネスコ協会・クラブの活動、日本ユネスコ運動全国大会

全国のユネスコ協会・クラブが UNESCO 憲章の理念のもと、地域に根差した活動をボランティアで展開しています。

様々な活動や学びの場を通じ、地域の文化や伝統を守り、相互の絆を深める取り組みを行っています。

また、全国の会員が一斉に集う全国大会を開催し、互いの活動に関する情報交換を行うとともに、講師を招いた学習会なども開催しています。



5. 日本ユネスコ協会連盟の文化・コミュニケーション関係の具体的取り組み

(1) 世界遺産活動 - 世界遺産の保護・保全、人材育成

①世界遺産アンコール遺跡群 バイオン寺院 シンハ像・ナーガ像修復プロジェクト

日本国政府アンコール遺跡救済チームの技術協力を得て、アンコール人材養成支援機構の共同事業として実施しています。2019年度は彫像15体の修復と欄干の修復を完了。8年間の活動で未経験者が熟練作業員に成長しています。過去には、1973年から8年にわたり、インドネシアのボロブドゥール遺跡の修復支援にも尽力しました。



②アンコール塗り絵教材プロジェクト

アンコール遺跡群のあるカンボジア・シェムリアップ州で、寺子屋で学んでいる現地の子どもの対象とした世界遺産教育を実施しています。アンコール遺跡群のレリーフや無形遺産をモチーフとした「塗り絵教材」の制作、教員研修、授業・遺跡訪問学習を実施しています。



③高校生スタディツアー

青少年による国際協力、国際交流と理解の推進を目的とした高校生のスタディツアーを実施しています。2010年から2018年まではフランス・ドイツのユネスコスクールへ派遣していました。2014年からはカンボジアへ派遣しています。内戦の記憶を伝える施設を訪問するとともに、国際協力の場である寺子屋や世界遺産などを視察しています。



④首里城復興ユネスコ募金

2019年に焼失した首里城の復興を支援するため「首里城復興ユネスコ募金」を開設し、募金活動を行いました。全国から寄せられた寄付金額は約3,800万円にのぼり、復興にお役立ていただくため、2020年10月に沖縄県知事に贈呈しました。



(2) 未来遺産活動・地域遺産活動 - 地域のたからものを100年後の子どもたちに

①プロジェクト未来遺産

日本の自然と伝統文化を未来に継承していくための市民活動として、2009年から実施しています。11年間で73の市民活動を登録し、街並みや祭り、景観、生物の生息地などの地域遺産の保護・保全、継承に役立てられています。



②絵で伝えよう！わたしの町のたからもの絵画展

子どもたちが、地域の文化や自然環境の素晴らしさを見つめ直し、それらを未来へと引き継いでいく気持ちを育むことをねらいとした事業で、1998年から実施しています。

各地のユネスコ協会・クラブが主体となり、「わたしの町のたからもの」をテーマに小・中学生より絵画作品を募集し、展示や表彰式を行っています。



(3) 国際理解・コミュニケーション - 平和のための国際理解教育

①世界寺子屋運動

1989年から「すべての人に教育を」のスローガンのもと、文字の読み書きのできない成人や学校にいけない子どもへに対し、学びの機会を提供しています。

現在は、カンボジア、ネパール、ミャンマー、アフガニスタンで活動を展開しており、現地事務所や現地協力団体とともに、寺子屋の運営・指導を行っています。



②寺子屋リーフレット制作プロジェクト

「世界寺子屋運動」を題材に、国内の子どもたちがアイデアを出し、書きそんじハガキ回収を呼び掛けるリーフレットを制作しています。

書きそんじハガキは、寺子屋を建設・運営するための資金の一部となっています。



③三菱アジア子ども絵日記フェスタ

アジアの小学生を対象とした絵日記コンクールで、1990年からスタートしました。

2019年度は24の国・地域の子どもたちから、約6万6千点の作品が寄せられ、国際選考会が開かれました。

「絵日記」を描くこと、見ることを通じて、互いの文化を知り、尊重しあう心を育てています。



④世界に広がる民間ユネスコ運動のネットワーク

世界各国にも、UNESCO 憲章の理念に賛同し、平和に向けて活動を行っているユネスコ協会が存在します。

当連盟が事務局を務め、アジア 14 か国が加盟する「アジア太平洋ユネスコ協会クラブ連盟 (AFUCA)」や、世界 80 か国以上が加盟し約 3800 のユネスコ協会・クラブが活動して「世界ユネスコ協会クラブ・センター連盟」(WFUCA) があります。

6. 地域のユネスコ協会・クラブの文化・コミュニケーション関係の取り組み

持続可能な社会をつくるため、日本及び世界のユネスコ協会・クラブが UNESCO 憲章の理念のもと、地域に根差した活動をボランティアで展開しています。

(1) 世界遺産活動

- 世界遺産保全活動
- 世界遺産への理解を深める活動（世界遺産講演会、写真展、スタディツアー、出前授業など）
- 世界遺産登録に向けた活動（勉強会、地域との連携など）

<事例> 富山ユネスコ協会 相倉合掌造り集落茅場の下草刈り

世界遺産保全のため 2005 年から毎年 7 月に、森林組合協力のもと実施しています。県内各地のユネスコ協会会員はじめ、企業や一般ボランティアも参加する取り組みです。刈り取り作業の後には、世界遺産の保存についての講話会も行い、合掌造りの伝統建築を守る取り組みの苦労や大切さについて理解を深めています。



(2) 未来遺産活動・地域遺産活動

- 未来遺産・地域遺産保全活動
- 未来遺産・地域遺産への理解を深める活動（地域遺産講演会、写真展、見学会、体験会、出前授業など）
- 未来遺産登録に向けた活動（勉強会、地域との連携など）

<事例> 雑司が谷・歴史と文化のまちづくり懇談会主催 としまユネスコ協会推薦 「雑司が谷がやがや」プロジェクト～歴史と文化のまちづくり

東京の雑司ヶ谷には、雑司が谷霊園、鬼子母神などの伝統的な文化・自然が残っています。プロジェクト未来遺産への登録に向けた活動を推進し、2014 年度に登録されました。伝統行事である「鬼子母神・御会式」の伝承、「雑司が谷案内処」の設置・運営、子どもたちによる伝統工芸品「すきみみずく」の制作ワークショップなど、地域住民が主体となって、自治体や学校との強い連携のもと、雑司が谷の自然・文化を継承し、まちづくりを推進しています。



(3) 文化活動

- 文化・芸術・伝統芸能の普及（講演会、チャリティコンサート、美術展、舞台・映画観賞会など）
- 文化の継承・継承と担い手の育成（見学会、体験会、出前授業など）

<事例> 沼津ユネスコ協会 沼津ユネスコフェスティバル

地域で長年育まれてきた伝統的な文化の発表の場として、毎年開催。市民・子どもたちが参画し、文化の伝承につなげています。



(4) 国際理解・コミュニケーション

- 国際理解講座（講演会、語学教室、国際理解クッキング教室など）
- 国際協力（世界寺子屋運動、世界遺産保護活動など）
- 国際交流（国際交流イベント・キャンプ、在日外国人・留学生との交流、海外スタディツアー）

<事例> 徳山ユネスコ協会 国際理解講座

1956年に「国際理解講座」として開設した「ユネスコ英会話教室」。岩国基地関係のアメリカ人を講師に迎え、初心者、初級者、中級者の3クラスを開講しました。英会話を通じて異文化交流を実践しています。



(5) コロナ禍での地域の文化・コミュニケーション活動

- オンラインの活用（オンライン勉強会・交流会、チャリティコンサートのYouTube配信など）
- 印刷物・冊子の活用（絵画展の冊子発行など）

<事例> 仙台ユネスコ協会 SALON&ZOOM 講座

コロナ禍において、従来型の活動イベントが中止を余儀なくされる中、新たな様式を模索し、2020年7月よりオンライン（Zoom）を活用した「SALON&ZOOM 講座」をシリーズで開催しています。テーマは毎回様々で、10月には「with コロナ時代の『文化活動』とは」をテーマとした文化トークを行いました。イベントの様子は後日YouTubeでも配信しています。

2020 第7回 SALON&ZOOM 講座
(公社)仙台ユネスコ協会ESD/SDGs委員会

開催方法 SALON・ZOOM併用、後日YouTube配信予定
開催日時 2020年10月31日(土) 10:00~12:00
開催場所 仙台ユネスコ協会 国分町3-1-1 仙台第一生命ビル5F

※ 西側通用扉からお入りください。マスクの着用をお願いします。
※ 体調に不安のある方のSALON参加はご遠慮ください。
※ 緊急連絡先は 022-224-2581 (仙台ユネスコ協会)
9:30前は、留守番電話対応になります。

文化トーク「仙臺まちなかシアター」という演劇活動
~withコロナ時代の「文化活動」とは~
渡部ギウウ氏 聞き手 仙台ユネスコ協会副会長 内藤恵子

渡部ギウウ (役者・演出者) 1964年生。山形県庄内町出身

7. 文化・コミュニケーション分野の普及活動の検討

(1) 文化・コミュニケーション分野の普及活動〈建議より抜粋〉

- ①ユネスコ活動のメリットを生かした地域創生や多文化共生社会の構築
- ②ユネスコが登録・認定を行う世界遺産、無形文化遺産、生物圏保存地域（エコパーク）、世界ジオパーク、創造都市ネットワーク等の持続可能な地域づくりに向けた積極的活用の後押し、好事例の展開
- ③文化遺産の保存修復技術の保護、文化遺産を伝承していく人材確保のための若い世代の関心・誇りの惹起
- ④地域社会の中で外国人との相互理解を進める多文化共生プログラムの充実
- ⑤「世界の記憶」事業の包括的見直しの後押し
- ⑥多様なステークホルダーの連携を深める戦略的プラットフォームの構築

(2) 建議を踏まえた今後の課題と活動

※ 【】内は該当する建議

- | | |
|---------------------------------------|--------|
| ◆世界遺産等を活用した地域創生、持続可能な地域づくり | 【①】 |
| ◆世界遺産等への理解促進とユネスコ理念の浸透 | 【②】 |
| ◆ユネスコ創造都市ネットワークとユネスコ活動の連携 | 【②】 |
| ◆世界遺産等を活用した国際理解・多文化共生プログラムの充実 | 【②④】 |
| ◆ユネスコスクール等との連携による次世代の理解促進 | 【③】 |
| ◆「世界の記憶」事業見直し後の理解促進 | 【⑤】 |
| ◆ユネスコ未来共創プラットフォームのネットワーク、ポータルサイト等との連携 | 【⑥】 |
| ◆コロナ禍、ポストコロナにおける文化・コミュニケーション活動の支援 | 【①②③④】 |

以上